

ディプロマ・ポリシーのルーブリック評価		若手リーダー水準	社会人1～3年目に期待される水準	S, Aに相当する水準	Bに相当する水準	Cに相当する水準	Dに相当する水準		
		7	6	5	4	3	2	1	
ディプロマ・ポリシー	要素								
DP1	国際人としてのアイデンティティを確立し、異文化に柔軟に対応するグローバルリテラシーを有する人材	国際人としてのアイデンティティ	<ul style="list-style-type: none"> Can create an environment where various opinions are shared and supported. 国際的な環境・職場において効果的でふさわしい行動・知識を発揮し、相乗効果を生み出す国際リーダーとしての責任ある役割を担うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> As a leader be able to change and adapt to the surrounding environment. 国際的な環境・職場において、効果的でふさわしい問題解決・意思決定、それに伴う議論に、国際人として積極的に参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> Be able to contribute to team results through cooperation and encouragement. 国際的な職場・環境において、異文化適応に伴うストレス管理が出来、物事を決めつけず、冷静に我慢強く国際人として行動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> Can engage others in constructive and creative discussion. 国際的な職場・環境における異文化適応をこなし、国際人として必要な柔軟性と他者への敬意を、行動・知識において発揮できる。 	<ul style="list-style-type: none"> Able to listen with interest and show understanding even if others thoughts and opinions are different from your own. 複眼的な国際視野を持ち、国籍・民族・人種にこだわらない公平な人間関係の構築が出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> Takes into account the complexity of human relationships, acting and speaking in consideration for people's position and feelings. 国際的な関心を持つことの重要性を認識し、行動や知識を国際化する動機付けがある。 	<ul style="list-style-type: none"> May occasionally fail to act appropriately or speak out when working in diverse groups. 自文化以外の文化には興味・関心が低く、国際人としてのアイデンティティ構築への興味や動機が極めて低い。
	グローバルリテラシー	<ul style="list-style-type: none"> Can explore diverse cultural perspectives before framing problems or proposing solutions. 国際的場面における意思決定・問題解決において、幅広いグローバルリテラシーを駆使し、主体的に貢献できる。 	<ul style="list-style-type: none"> Can critically analyze the nature and merit of claims about global events and relationships. 幅広いグローバルリテラシーに基づいた適切な対話・質問・理解を国際的場面において出来、建設的に信頼に基づいた人間関係を築くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> Can listen respectfully, recognizing differences in communication style and etiquette across cultures. 国際問題・世界情勢に関して、歴史的側面・倫理観・経済的影響・宗教面など、多角的な知識を駆使して理解・分析することができる。複数の国・言語のメディアに日常的に触れ情報収集している。 	<ul style="list-style-type: none"> Can empathize with others no matter their race, gender, religion, or political perspective. 国際社会で通用する倫理観を持ち、行動が出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> Can analytically and carefully, in unfamiliar contexts, identify culturally significant patterns of interaction. 不信性の高いメディアを通して、国際問題・世界情勢に関する情報の知識の増大に、日々努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> Can think critically about the world and the role the play in it. 国際問題・世界情勢の理解には、複眼的な見識が不可欠であることを、認識している。 	<ul style="list-style-type: none"> May fail to engage in actions and behaviors that demonstrate a sense of global responsibility. 自国以外の、国際問題・世界情勢への興味・知識が、極めて低い。 	
DP2	様々な専門領域を横断する知識と多角的視点を有する教養豊かな人材	横断的な知識	<ul style="list-style-type: none"> 常に新しい知識を得、新しい価値を見出すことができる。 複数の専門領域を横断する知識を用いて、問題に取り組み、解決を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な知識を生かして問題解決に取り込むことができる。 様々な専門領域を横断する知識を用いて、議論することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識を組み合わせ課題や問題を考えることができる。 様々な専門領域を学び、理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 好奇心旺盛で自発的に学び理解度を上げながら幅広い知識を得ることができる。 複数の分野に関心をもち、情報や知識を収集することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 好奇心があり自発的に学び多種多様な知識を得ることができる。 自分の関心のある領域の周辺にも目を向け、情報や知識を得ようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 好奇心があり自発的に学ぶようとする。 自分の関心のある領域で、知識を広げようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 好奇心がなく自発的に学ばないことが多い。 関心が狭く、偏った領域の知識しかもっていない。
	多角的視点	<ul style="list-style-type: none"> リーダーシップをとって、異なる考え方や意見をまとめることができる。 他の意見を受け入れることを習慣化することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な立場の視点に切り替えることができる。 異なる考え方や価値観をもつ人と、議論をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 違う考えや価値観に触れたり自ら意見を伝えることができる。 他の視点を理解した上で、自らの考えを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の意見や価値観を理解するプロセスを踏んで受け入れることができる。 複数の視点を融合させ、自らの考え方を発展させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分とは異なる意見や価値観を拒絶せず受け入れることができる。 他者の考え方に関心をもち、多角的視点で物事を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分とは異なる意見や価値観を拒絶せず受け入れようとする。 他者の視点や意見を理解しようとする気持ちをもつようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の価値観を優先し、人の言動を受け入れない。 物事を一つの視点からのみ捉え、他の考え方や価値観を受け入れられない。 	
DP3	高い対人関係能力・コミュニケーション能力を有する人材	対人関係能力	<ul style="list-style-type: none"> 優れた人脈や、人との関係を大事に維持することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談を受けた時には、相手の立場や背景を理解して対応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と協力して、働きかけて、グループワークを成功に導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人から相談を受けた時には、相手の話を聴き、仲良くすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に対して穏やかな気配りができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人に対して笑顔で話しかけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の人と一緒に物事に取り組むことに抵抗がある。
	コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> 様々な意見があっても、建設的に議論をまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間に積極的に発言できる雰囲気を作り、議論を発展させていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲に反対の意見があっても、自分の主張ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知らない人に対しても、自分から自然に話しかける。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークで課題に取り組む場合には、自ら意見を発信するなど、グループのために貢献することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の言いたいことを整理して、分かりやすく伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の言いたいことがまとまらず、相手に伝わらないことが多い。 	
DP4	常に社会に関心をもち、高い職業意識と自己管理能力を有する人材	社会への関心	<ul style="list-style-type: none"> 常に社会への関心を有し、社会問題に対する課題発見と改善を繰り返すことを習慣化している。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会問題の発見に目標を定め、よりよい行動に結びつけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会問題を自ら考え、責任をもってその解決を探そうとすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会問題に取り組むときに、自発的に考え、行動に移すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会問題に関し、任されたことは自分でできることを考え、行動するようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会問題への取り組み方でよい方法があればなるべく取り入れるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会問題に対して、人からの指示を待っていることが多い。
	職業意識	<ul style="list-style-type: none"> どんな仕事や課題でも主体的に好奇心をもち、取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事に対する良い結果をイメージして、自信をもって取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> たとえ好きでない職業も、自分なりに工夫して、やり遂げようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めての仕事でも臆せず取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の強みと弱みを知っており、自分を信じて行動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい仕事、課題に対して、挑戦する気持ちがあわかない。 	
	自己管理能力	<ul style="list-style-type: none"> 場面に応じて、自分の感情を率直に伝え、相手の意見を尊重することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊張を感じる場面でも、落ち着いて取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の感じるストレスに適切に対処できる方法を知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 難しい課題に対しても前向きに取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 感情が多少乱れても、比較的冷静に行動をするよう心がけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係等に問題があっても、落ち着いて対処しようと思えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ち、感情を掴むことができず、コントロールすることに不得手。 	
DP5	自由な発想で問題発見・問題解決能力を有し、時代の変化に適應できる人材	問題発見能力	<ul style="list-style-type: none"> 整理した要素間の関係について仮説を立てられる 課題に優先順位をつけた上で、解決に向けて実効的な手段を選択できる 	<ul style="list-style-type: none"> 問題に関連する要素を整理できる 問題に対して、適切な情報源を見定め解決すべき複数の課題を設定し、それらに優先順位をつけられる 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を構成する要素を整理できる 問題に対して、広い視野から解決すべき複数の課題を設定できる 	<ul style="list-style-type: none"> 整理した情報に基づいて、解決すべき課題を発見できる 問題に対して、解決すべき課題を設定できる 	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報を適切に整理できる 現状と目標を把握し、そのギャップを問題として捉えられる 	<ul style="list-style-type: none"> 問題発見のために必要な情報を適切に収集できる 与えられた問題を正確に理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> 問題発見のために必要な情報を収集できない 与えられた問題を正確に理解できない
	問題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> 成果の位置づけを評価し、発展させることができる 複数の因果関係を整理し、現実的な課題解決につなげられる 	<ul style="list-style-type: none"> 分析結果を適切に考察できる 客観的に整理・分析した情報をもとにして、複数の因果関係の仮説を構築・検証できる 	<ul style="list-style-type: none"> 定量データを適切な統計的方法で分析できる 客観的に整理・分析した情報をもとにして、因果関係の仮説を構築・検証できる 	<ul style="list-style-type: none"> 収集したデータを適切に整理し、図表などで視覚化できる 課題に応じて定性的情報や定量的情報を収集し、それらを客観的に整理・分析できる 	<ul style="list-style-type: none"> 解決に必要な情報を収集できる 様々な方法で適切に情報を収集し、収集した情報を客観的に整理できる 	<ul style="list-style-type: none"> 解決すべき問題を理解し、具体的な解決方法を提案できる 問題に対する情報収集が適切である 	<ul style="list-style-type: none"> 解決すべき問題が理解できていない 問題に対する情報収集が適切ではない 	
DP6	上記の能力を発揮して、グローバル社会に貢献できる人材		<ul style="list-style-type: none"> 国籍、言語、文化等が異なる組織であっても多様な人脈ネットワークを広げるために自ら場を作り、維持・運営することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国籍、言語、文化等が異なる組織であっても誰に対しても臆せず接し多様な人脈を広げていくことができる。 グローバルな課題など事実が複雑に絡み合っている課題でもデータを収集し客観的に分析し、かつ活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国籍、言語、文化等が異なる組織であっても必要に応じて自分の気持ちを素直に表現し、人脈を広げる行動をとることができる。 課題に応じて定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に分析し、かつ活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国籍、言語、文化等が異なる人からでも相談された際は、相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる。 課題に応じて様々な方法で多様な情報を集め活用することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 国籍、言語、文化等の相違で自分と異なる考えや意見に対しても興味深く相手の話を聞き理解を示すことができる。 興味のある特定の分野であれば、必要な情報を集め、かつそれを活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国籍、言語、文化等が異なる場合でも相手の立場や気持ちを考えたり、人間関係に配慮した言動を心掛けている。 課題に対し自分なりに情報を集めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国籍、言語、文化等が異なる相手には興味をもって相手の話を聞いたり相手の立場を考えた行動をとることが苦手なようである。 課題に対し情報を集める能力が不十分である。